

おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろえちご塾」（恒文社）等

「越後アルプス一万弱（!）」

やれインフルエンザだ、それノロウイルスだのと戦々恐々していたと思ったら、いつしか春はあけぼの、花粉症の季節到来です。おまけに、最近は、大陸からの黄砂や、かの国の大気汚染問題で、うがい・手洗いは欠かせません。さて、この手洗い、ちゃっちゃとすませることが多いようですが、さる筋から『メリーさんの羊』か、『アルプス一万尺』を歌いきる時間が最適と聞いたことがあります。

おそらくまじめな読者のみなさんは、両方口ずさんだことだと思いますが、ここで大きな疑問がわいてきます。「『アルプス一万尺（歌詞省略）』は、ラランラ ララララ ラランラ ララン…♪まで歌うのか？」それとも「2番までなのか？」ということです。自称山岳民族、ワングル部出身の某氏によれば「実はこの歌29番まであるんて！しかも大学によっては30番以上もあるんて！」というのです。おまけに、「アルプスとはあの名だたる世界のアルプス山脈ではない！日本の山である！歌詞に出てくる小檜の上でアルペン踊りなど踊ったら滑落遭難間違いなしである！」ということも判明しました。わたしたまげました。今までずーっと、アルプスの山小屋近くでチロルハットの民族衣装小集団が二人ずつ腕組んで踊っている楽しい歌だ、と思っていたからです。小檜はてっきり、小屋の離れを表す山用語で、コヤリ（小屋離）である、そこのコテージ風の野外ステージで踊るアルプス地方の伝統芸能だ！と勝手に解釈してました。

しかもこのアルプスは日本語では、高い山の比喩的呼称、ひいては高い所の呼び名ともいうのです。そういえば、甲子園にもアルプススタンドがありました。ということは、わが新潟県で一番高い山が「越後のアルプス」といっても過言ではありません。

早速地図をみると、ありましたありました、越後アルプスが。その名も糸魚川の小蓮華山、新潟と長野に連なる北アルプスですから正真正銘のアルプスです！高さは2766メートルで、一万尺には少々届かぬ約九千尺。文字通り一万弱であります！頂上には鉄剣と石仏があるといい、昔は山岳信仰の地であった証です。別名「大日岳」、この名からも真言密教の聖地であったといえましょう。これでは、アルペン踊りもワルツも不謹慎です。ましてや、ベリーダンスなどもってのほか。かろうじて、ラジオ体操第一（第二は動きが大きいから危ない）や糸魚川名物『おまんた囉』か新潟の代表的民謡『佐渡おけさ』なら大日如来さまのお許しがいただけそうな気がします。

とはいえ、頂上は崩落箇所もあり、立ち入り禁止区域もある地ですから、十分に注意してしつしつと控えめに踊った方がよろしいでしょう。やはりプロの山男山女以外、このアルプス関連は歌だけにしておいたほうがよいかもしれません。では、手洗いにふさわしい時間はどんげか？まさか、29番まで歌うわけにはいきませんまい。どこまで歌えば良いのかね？そんな疑問にお答えして以下をお届けいたしますので、手洗いの際ご活用ください。

♪アルプス一万弱 小蓮華の上で ラジオ体操
（おまんた囉 でも 佐渡おけさでもお好きなタイトルさあどうぞ）さあ、おどりましょ。（ほれ）
ラランラ ララララ ラランラ ラララ ラランラ
ララララ ラララララララ
ン♪

以上2回繰り返せば完璧です。

では、皆さま歌って洗って手洗い・うがい！どうぞ健康にご留意ください。

